

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年11月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972400349		
法人名	医療法人 岡本会		
事業所名	グループホーム 高岩		
所在地	吾川郡いの町小川西津賀才126番地		
自己評価作成日	平成23年9月13日	評価結果 市町村受理日	平成23年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでは、地域の美しい自然と温かい人々に溶け込み、四季を感じながら、利用者と職員の馴染みの関係を築き、穏やかで尊厳のある暮らしを送ってもらうよう支援している。また、食生活においても偏りのない食事の工夫と健康管理や衛生管理、適切な医療の受診、残存機能の維持・回復、大切な方との交流などに取り組むとともに、ケアに当たっては、この事業の社会的責任の認識を常に研鑽し、平等をモットーとしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosip/infomationPublic.do?JGD=3972400349&SCD=320&PCD=39
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成23年11月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は中山間地域の恵まれた自然環境の中に立地し、日頃から地域住民と人間味溢れる触れ合いがある。災害時に備え地域関係者による検討会を開催し、地域住民や地元の自主防災組織との協力体制を確立したり、事業所からも地域の避難場所として活用してもらうなど、地域で共存していく体制も整っている。施設長をはじめ管理者、職員は、利用者一人ひとりに寄り添い、家族との関わりも大切にしながら個別支援に取り組むとともに、法人系列のグループホームによる合同行事を通して、利用者と家族の絆づくりにつなげたり、利用者同士が旧交を温める機会になっている。また、母体法人による医療連携体制も整っており、利用者、家族の信頼を得ている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名: 青空

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業開始当初からの基本理念をホームに掲示するとともに、朝礼で唱和したり、職員全員で話し合いながら実践できるように取り組んでいる。	利用者に、ゆとりと安心、生き甲斐と喜びのある生活を送ってもらうための事業所独自の理念を作成している。申し送り時に理念を復唱するとともに、ショートミーティングやケア会議などで振り返りながら職員間で共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間を通して地域の小学生の訪問を受け、触れ合ったり、地域のオカリナグループや三味線グループなどのボランティアとも交流している。また、地域住民とは散歩時に挨拶したり、行事への参加を通して顔馴染みになっている。	地区の清掃活動や敬老会などの行事に参加したり、事業所で行うるんるん若がえる体操などの行事を通して地域住民と交流している。また、地元子ども会やボランティアの訪問を受けたり、散歩や買物時に住民と声をかけ合ったり、住民から野菜や果物などの差し入れがあるなど、日頃から地域に溶け込んでい	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や日常の暮らしの中で利用者と地域住民が触れ合う機会があり、その機会に認知症について理解してもらうよう話し合っている。また、建物や駐車場を地域に開放している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を開催している。意見交換の中で取り組みについて一定の評価も得てサービス向上につなげている。家族代表から意見を聞く良い機会となっている。	地域の幅広い分野から委員の協力を得て、事業所から運営状況を報告したり、災害対策などタイムリーな議題も提案しながら、会議を運営している。評価結果や対応等についても説明しているが、議事録には記載されていない。	自己評価結果をもとに、会議毎にテーマを決めるなどの工夫がみられるが、会議の議事録は、後から第三者がみても解るように、意見交換等の内容を記録しておくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年数回、町内のグループホームが地域包括支援センターで情報交換会や勉強会を行っている。毎月の通信を持参し、ホームの状況を伝えたり助言をもらっている。	毎月の通信を支所に届けるとともに、運営推進会議や町内のグループホーム連絡会などを通して事業所の実情を伝えたり、指導や助言をもらうなど、日頃から協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会や勉強会、ミーティング等で身体拘束について話し合い、拘束をしない介護に取り組んでいる。また、言葉による拘束にも注意するよう、折に触れて話し合っている。	法人の身体拘束に関する研修や伝達講習を通して職員の理解を高め、拘束をしないケアを実践している。また、ショートミーティングなどの機会を捉えて、行動抑制につながる声かけをしないよう注意している。日中は玄関等には施錠せず、利用者との信頼関係づくりを第一としており、現在、外出傾向のある利用者はいない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、ミーティング等で高齢者の虐待防止について職員に周知、徹底し、虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を喝湯している事例もあり、制度の勉強会を行い、職員の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要説明書及び契約書等の説明を行い、理解と納得を得たうえで契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事への参加の機会などに、気軽に意見を言ってもらよう信頼関係づくりに配慮している。苦情に限らずお褒めの言葉を頂いた場合も全職員に伝達し職員の意欲向上、資質向上につないでいる。	家族会はないが、法人系列のグループホーム合同行事の後、家族同士で懇談する機会を設けている。また、面会時等には個別に話し合い、家事の役割分担や整容など、利用者の能力を活かした対応などについて意見があり、職員間で共有しながら日々のケアにつなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りやミーティングにて意見を出し合い、内容をその都度報告してもらい、できることから運営に反映させている。	職員会や申し送り、ショートミーティングなどの機会に職員の意見や提案を聞いている。内容に応じて法人にも相談しながら、備品類の買い替えや、法人のバスの手配など、運営につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の長所を活かし、自信を持って働ける職場環境づくりや条件整備に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、法人内研修に可能な限り参加するよう配慮し、ホーム内での勉強会に反映し、職員の資質向上に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や事業所間での交流を通して、事例発表を行い職員の自信につなげたり、他の事業所との利用者同士の交流を楽しみにつなげるなど、運営に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、家族や関係機関から生活状況や身体状況、性格などの情報を聞き、本人と面談し、思いを聞きながら不安などを解消し、安心と信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にゆっくり時間をもち、家族の要望や不安を聞き出し、より良い信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や家族の意向、関係機関からの情報をもとに、今何が求められているか適切なサービス内容について検討し、できるだけ本人、家族の意向に沿えるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と日常的に接することで、昔ながらの生活習慣や作法等を習い、共に支え合う関係を築いている。また、本人の意見や意向を尊重しながら支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の通信に暮らしぶりの手紙を添えたり、家族の面会時に、生活状況や身体状況を報告し、意見や思いを聞きながら共に支え合っていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人等が面会の際には、他の利用者に気遣うことなく自室で思い出話をしてもらうようにしている。また、お茶菓子等の配慮もしている。	友人、知人の訪問を受けたり、法人系列のグループホームの合同行事を通して利用者同士で旧交を温めている。また、地域のイベントを通して馴染みの住民と声を交わしたり、ドライブがてら自宅周辺に出かけるほか、家族の協力で行きつけの美容院や墓参りに行くなど、これまでの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活習慣や認知症状の程度を把握し、良好な仲間づくりの支援を行うとともに、食卓の座席配置や自由時間の過ごし方、会話の中継ぎ等にも工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居決定時は本人、家族に納得してもらうよう説明をするとともに、退居後も必要に応じ相談を受けるなど、継続して関わりを持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や希望を十分に聞く場面をつくり、把握するようにしている。また、個々の人格やプライドへの配慮と体調などを考慮し、個々にあった暮らしを検討している。	利用者とのコミュニケーションを大切に、会話や行動などから思いや希望を把握している。困難な場合は家族に相談したり、表情や仕草などから思いを推察し、利用者本位に検討している。	自己評価結果をもとにアセスメントの改善に取り組んでいるが、生活歴等の情報収集をさらに充実し、利用者の思い等の把握につなげていくことを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴や生活状況を本人や家族から聞き取り、職員間にはアセスメントシートにより共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状況や能力などの現状についてミーティング等で話し合い、総合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞き、介護記録や職員の気づきなども踏まえ、毎月のミーティング時に現状に即した介護計画を検討している。職員は個々の介護計画に沿ってケアに取り組んでいる。	介護計画期間は3カ月を基本としており、見直し時には、予め利用者、家族の意向を聞くとともに、計画作成担当者を中心に職員を含めてモニタリングとカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。また、家族には直接説明することを徹底している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の生活状況や身体状況を介護計画の実践ファイルに記載し、情報を共有して日々の実践や介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関への定期受診の支援や、他の専門医への受診の際にも家族との連携を密にして可能な限り支援している。また、入退院時には必要に応じ病院への送迎も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の部落長や民生委員、防災クラブの協力や、趣味のボランティアクラブ等の方々と交流したり、ホームで行うるん体操に地域住民の参加を得るなど、利用者の豊かな暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃から主治医に相談したりや報告できる関係づくりに努め、心身の状況の把握や健康管理に取り組んでいる。隣接する診療所にもいつでも受診できる環境が整っている。	入居時に、利用者、家族の意向で協力医をかかりつけ医とし、毎週1回の往診を受けている。専門医への受診は家族対応を基本としているが、家族の状況に応じて職員が対応している。受診結果は主治医から家族に説明があるとともに、職員間には受診記録で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師の訪問があり、日々のバイタルチェックや身体の状況、自覚、他覚症状の有無、食事や水分摂取の把握等、総合的な管理に努め、必要時には助言、アドバイスももらいながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはその都度医療機関と連絡を取り、本人、家族の意向を聞きながら早期退院に向けて話し合う関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、本人、家族の意向を十分に聞き、主治医を交え方針を検討している。病状等の状態を主治医よりその都度説明を受け、支援内容を見出しながら支援している。	入居時に、重度化対応や看取りに関する指針を説明し、その時点での意向も確認している。家族の意向等に沿って支援していく体制を整えているが、これまで事業所で看取りの事例はない。医療機関で終末期を迎える例があり、入院対応や見舞いなど、事業所としてできる支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアル等を作成するとともに、関連の研修を受講したり、ホームでも常に対応について話し合うなど、職員の意識を高め、迅速に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応マニュアルを作成し職員全員に周知徹底するとともに、地域との合同訓練を行い、災害時の協力体制を築いている。全室にスプリンクラーを完備するとともに、直接消防署に通報できるシステムを導入している。	消防署の指導を得た消火訓練や地震想定などの自主訓練を実施しており、地域住民の参加も得ている。また、地域の関係者の協力を得て災害対策検討会を開催し、地域の協力体制を築いたり、事業所を地域の避難場所として利用してもらうよう申し出ている。食料等の準備もできている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者の身体状況、生活リズムを把握したうえで、一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いやさりげない介助に気をつけ、プライバシーを損ねない対応を心がけている。	利用者の人間性を尊重することを理念に掲げ、排泄などのケアの場面でのさりげない声かけや、誇りやプライバシーを損ねない対応について、ショートミーティングなどの機会を捉えて職員に周知している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	問いかけ、声かけが安心してできる体制作り、気軽に相談が誰にでもできる雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、可能な限り本人のペースで生活できるよう支援している。年間行事をカレンダーに印をつけ希望や楽しみを抱いてもらうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院に行ったり、衣類の買物などの支援をしている。行事への参加などの際には服を選んだり、身だしなみを整えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れたメニューを心がけ、馴染みの食器で穏やかにゆっくりと食事ができる雰囲気づくりの工夫をしている。利用者は野菜の下ごしらえやテーブル拭きなど、可能な範囲で職員と一緒にやっている。	一方のユニットに調理担当職員を配置し、利用者の希望を聞きながら献立を作成している。地域住民や家族からの差し入れ食材なども活用しながら、利用者は能力に応じて調理の下ごしらえや片付けをしている。職員は利用者と料理について会話しながら同じ物を一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好や量を把握しており、一人ひとりに合わせた食器選びや盛りつけをしている。また、嚥下状態に合わせ食事形態に工夫を凝らしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの歯の状態や義歯の使用などを把握し、毎食後に口腔ケアを行い、チェックしている。必要時は歯科医師にも相談している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握するとともに、排泄チェック表を利用し、時間誘導にてトイレで排泄できるよう支援している。また、さりげなく介助するなど、プライバシーの保護に努めている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄するよう誘導している。利用者個々に応じて、夜間用に排泄用品を替えたり、ポータブルトイレを使用したりしている。紙パンツから布パンツに改善したり、失敗が少なくなった事例など、自立に向けて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状態を把握し、食事内容や水分摂取の工夫、日常的に運動を行うなど、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制があり、入浴を楽しんでもらうよう季節に応じてゆず風呂や菖蒲湯などの工夫を凝らしている。洗身についても可能な限り自分で洗ってもらうよう配慮している。現在、夜間入浴希望者はいない。	利用者の希望に沿って、午後の時間帯に入浴するよう支援している。入浴の拒否事例はなく、概ね2～3日間隔で入浴している。また、利用者の状況に応じて、清拭や足浴などで清潔保持をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休養できる自室の環境づくりに努めるとともに、個々の睡眠パターンを把握し、日中に休養してもらったり、夜間の安眠に向けて生活リズムを整えるよう支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は各自のファイルに綴じ、誰にでもわかるようにしている。服薬時には名前や日付、食前、食後、飲み込み状態の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケやぬり絵、パズルなどの趣味を楽しんだり、洗濯物たたみや調理の下ごしらえ、テーブル拭き、お膳拭きなど、個々の能力に応じた役割を発揮してもらうとともに、気の合った者同士で昔話に花を咲かせるなどの場面づくりをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	体調や気候状況を見ながら、散歩や買物、イベントへの参加など、できるだけ利用者の希望に沿えるよう支援している。イベント時は家族にも参加してもらい、一緒に楽しんでいる。	日常的に周辺を散歩したり、希望に応じて買物に行くとともに、庭先で体操する習慣もある。また、少人数でのドライブや、車椅子の利用者も一緒に季節に応じた花見や行楽に出かけたり、系列グループホームとの定期的な合同行事への参加も外出の楽しみの一つとなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物や外出時には、可能な限り本人から支払いをしてもらうよう見守り支援をしている。また、社会性を高めるため、近くのコンビニエンスストアには頻繁に出かけるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に沿って電話してもらったり、家族からの電話を取次ぐなどしている。手紙支援は、年賀状を一緒に作成している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間に、利用者との共同作品や写真集を貼ったり、季節の生花、観葉植物、昔ながらの物などを飾っている。また、温度調節や、くつろぎの時間帯には軽音楽をさりげなく流し、共に口ずさみ快適さを演出する工夫を凝らしている。	食堂兼居間には食卓テーブルやソファを置き、利用者がゆったりくつろげるよう配慮している。絵画やかつての農作業用具、こどもの絆纏などをさりげなく飾ったり、行事の写真なども貼り、落ち着いた雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースの数カ所にソファやイスを置き、自由に気の合った者同士で過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、に馴染みの物を持ってきてもらい、本人が安心感を持ち、落ち着いて過ごせるよう工夫している。(仏壇、タンス、イス、布団、日頃着ていた洋服、靴など)また、彼岸等にはおはぎなどをお供えし、大切な家族を偲んでもらうよう支援している。	ベッドと椅子が備え付けで、畳敷きにカーペットを敷いたり、窓側の障子とも調和がとれており、過ごし易い雰囲気がある。整理ダンスや衣装ケース、テレビや日常生活の小物類などのほか、カレンダーやぬり絵、写真など、利用者それぞれの個性が窺える居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は、個々の状態を把握し、トイレの位置や自室の入り口などに目印をつけ、生活の混乱を最小限にとどめるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

ユニット名: 太陽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業開始当初からの基本理念をホームに掲示するとともに、朝礼で唱和したり、職員全員で話し合いながら実践できるように取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間を通して地域の小学生の訪問を受け、触れ合ったり、地域のオカリナグループや三味線グループなどのボランティアとも交流している。また、地域住民とは散歩時に挨拶したり、行事への参加を通して顔馴染みになっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や日常の暮らしの中で利用者と地域住民が触れ合う機会があり、その機会に認知症について理解してもらうよう話している。また、建物や駐車場を地域に開放している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催している。意見交換の中で取り組みについて一定の評価も得てサービス向上につなげている。家族代表から意見を聞く良い機会となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年数回、町内のグループホームが地域包括支援センターで情報交換会や勉強会を行っている。毎月の通信を持参し、ホームの状況を伝えたり助言をもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会や勉強会、ミーティング等で身体拘束について話し合い、拘束をしない介護に取り組んでいる。また、言葉による拘束にも注意するよう、折に触れて話している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、ミーティング等で高齢者の虐待防止について職員に周知、徹底し、虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を喝湯している事例もあり、制度の勉強会を行い、職員の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要説明書及び契約書等の説明を行い、理解と納得を得たうえで契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事への参加の機会などに、気軽に意見を言ってもらうよう信頼関係づくりに配慮している。苦情に限らずお褒めの言葉を頂いた場合も全職員に伝達し職員の意欲向上、資質向上につないでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りやミーティングにて意見を出し合い、内容をその都度報告してもらい、できることから運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の長所を活かし、自信を持って働ける職場環境づくりや条件整備に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、法人内研修に可能な限り参加するよう配慮し、ホーム内での勉強会に反映し、職員の資質向上に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や事業所間での交流を通して、事例発表を行い職員の自信につなげたり、他の事業所との利用者同士の交流を楽しみにつなげるなど、運営に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、家族や関係機関から生活状況や身体状況、性格などの情報を聞き、本人と面談し、思いを聞きながら不安などを解消し、安心と信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にゆっくり時間をもち、家族の要望や不安を聞き出し、より良い信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や家族の意向、関係機関からの情報をもとに、今何が求められているか適切なサービス内容について検討し、できるだけ本人、家族の意向に沿えるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と日常的に接することで、昔ながらの生活習慣や作法等を習い、共に支え合う関係を築いている。また、本人の意見や意向を尊重しながら支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の通信に暮らしぶりの手紙を添えたり、家族の面会時に、生活状況や身体状況を報告し、意見や思いを聞きながら共に支え合っていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人等が面会の際には、他の利用者に気遣うことなく自室で思い出話をしてもらうようにしている。また、お茶菓子等の配慮もしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活習慣や認知症状の程度を把握し、良好な仲間づくりの支援を行うとともに、食卓の座席配置や自由時間の過ごし方、会話の中継ぎ等にも工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居決定時は本人、家族に納得してもらうよう説明をするとともに、退居後も必要に応じ相談を受けるなど、継続して関わりを持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や希望を十分に聞く場面をつくり、把握するようにしている。また、個々の人格やプライドへの配慮と体調などを考慮し、個々にあった暮らしを検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴や生活状況を本人や家族から聞き取り、職員間ではアセスメントシートにより共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状況や能力などの現状についてミーティング等で話し合い、総合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞き、介護記録や職員の気づきなども踏まえ、毎月のミーティング時に現状に即した介護計画を検討している。職員は個々の介護計画に沿ってケアに取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の生活状況や身体状況を介護計画の実践ファイルに記載し、情報を共有して日々の実践や介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関への定期受診の支援や、他の専門医への受診の際にも家族との連携を密にして可能な限り支援している。また、入退院時には必要に応じ病院への送迎も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の部落長や民生委員、防災クラブの協力や、趣味のボランティアクラブ等の方々と交流したり、ホームで行うるんるん体操に地域住民の参加を得るなど、利用者の豊かな暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃から主治医に相談したりや報告できる関係づくりに努め、心身の状況の把握や健康管理に取り組んでいる。隣接する診療所についても受診できる環境が整っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師の訪問があり、日々のバイタルチェックや身体の状態、自覚、他覚症状の有無、食事や水分摂取の把握等、総合的な管理に努め、必要時には助言、アドバイスをもらいながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはその都度医療機関と連絡を取り、本人、家族の意向を聞きながら早期退院に向けて話し合う関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、本人、家族の意向を十分に聞き、主治医を交え方針を検討している。病状等の状態を主治医よりその都度説明を受け、支援内容を見出しながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアル等を作成するとともに、関連の研修を受講したり、ホームでも常に対応について話し合うなど、職員の意識を高め、迅速に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応マニュアルを作成し職員全員に周知徹底するとともに、地域との合同訓練を行い、災害時の協力体制を築いている。全室にスプリンクラーを完備するとともに、直接消防署に通報できるシステムを導入している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者の身体状況、生活リズムを把握したうえで、一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いやさりげない介助に気をつけ、プライバシーを損ねない対応を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	問いかけ、声かけが安心してできる体制作り、気軽に相談が誰にでもできる雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、可能な限り本人のペースで生活できるよう支援している。年間行事をカレンダーに印をつけ希望や楽しみを抱いてもらうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院に行ったり、衣類の買物などの支援をしている。行事への参加などの際には服を選んだり、身だしなみを整えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れたメニューを心がけ、馴染みの食器で穏やかにゆっくりと食事ができる雰囲気づくりの工夫をしている。利用者は野菜の下ごしらえやテーブル拭きなど、可能な範囲で職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好や量を把握しており、一人ひとりに合わせた食器選びや盛りつけをしている。また、嚥下状態に合わせ食事形態に工夫を凝らしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの歯の状態や義歯の使用などを把握し、毎食後に口腔ケアを行い、チェックしている。必要時は歯科医師にも相談している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握するとともに、排泄チェック表を利用し、時間誘導にてトイレで排泄できるよう支援している。また、さりげなく介助するなど、プライバシーの保護に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状態を把握し、食事内容や水分摂取の工夫、日常的に運動を行うなど、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制があり、入浴を楽しんでもらうよう季節に応じてゆず風呂や菖蒲湯などの工夫を凝らしている。洗身についても可能な限り自分で洗ってもらうよう配慮している。現在、夜間入浴希望者はいない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休養できる自室の環境づくりに努めるとともに、個々の睡眠パターンを把握し、日中に休養してもらったり、夜間の安眠に向けて生活リズムを整えるよう支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は各自のファイルに綴じ、誰にでもわかるようにしている。服薬時には名前や日付、食前、食後、飲み込み状態の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケやぬり絵、パズルなどの趣味を楽しんだり、洗濯物たたみや調理の下ごしらえ、テーブル拭き、お膳拭きなど、個々の能力に応じた役割を発揮してもらうとともに、気の合った者同士で昔話に花を咲かせるなどの場面づくりをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や気候状況をみながら、散歩や買物、イベントへの参加など、できるだけ利用者の希望に沿えるよう支援している。イベント時は家族にも参加してもらい、一緒に楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物や外出時には、可能な限り本人から支払いをしてもらうよう見守り支援をしている。また、社会性を高めるため、近くのコンビニエンスストアには頻繁に出かけるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に沿って電話してもらったり、家族からの電話を取次ぐなどしている。手紙支援は、年賀状を一緒に作成している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間に、利用者との共同作品や写真集を貼ったり、季節の生花、観葉植物、昔ながらの物などを飾っている。また、温度調節や、くつろぎの時間帯には軽音楽をさりげなく流し、共に口ずさみ快適さを演出する工夫を凝らしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースの数カ所にソファやイスを置き、自由に気の合った者同士で過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、に馴染みの物を持ってきてもらい、本人が安心感を持ち、落ち着いて過ごせるよう工夫している。(仏壇、タンス、イス、布団、日頃着ていた洋服、靴など)また、彼岸等にはおはぎなどをお供えし、大切な家族を偲んでもらうよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は、個々の状態を把握し、トイレの位置や自室の入り口などに目印をつけ、生活の混乱を最小限にとどめるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない